

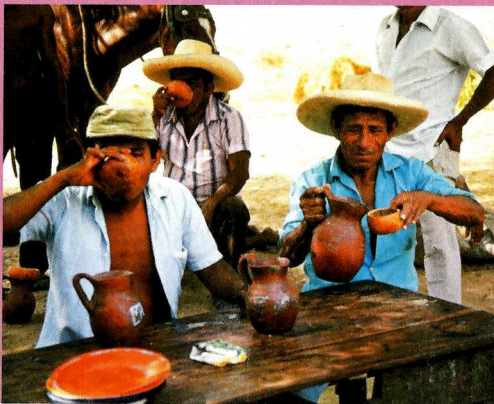
# 開館30周年記念

## みんなく ウィークエンド・サロン 研究者と話そう

さまざまな研究者から、直接ナマの話を聞く「研究者と話そう」。

7月は中旬からスタートします。夏休み、民博で博物館三昧の一日を過ごしてみませんか。

トウモロコシ酒を楽しむ人びと  
(ペルー北海岸)



■時間：14:30～15:30(予定)  
■参加費：無料(ただし、観覧券が必要)

\* 毎週土曜日は、小学生・中学生・高校生は無料で観覧できます。  
ただし、自然文化園を通行して来館される場合は、自然文化園の入園料が必要です。

実施日・話者・話題・場所

7月15日(日)  
関 雄二 (先端人類科学研究部教授)  
トウモロコシ酒で酔う  
於:アメリカ展示

7月16日(月・祝)  
横山 廣子 (民族社会研究部准教授)  
雲南・絞り藍染めの村の、その後  
於:中国地域の文化展示

7月22日(日)  
園田 直子 (文化資源研究センター教授)  
展示場の環境づくり ームシ対策編  
於:展示場内休憩所

7月28日(土)  
ピーター・J・マシウス  
(研究戦略センター准教授)  
ニュージーランドと植物の世界  
於:オセアニア展示、アメリカ展示、日本の文化展示

※以後の予定は、ホームページ等でお知らせします。

### 編集後記

昆虫に興味をもつのは、狩猟本能や知的好奇心ゆえだけでない。端的に、そこにエロスを見いだすからだ。昆虫少年上がりのわたしは、そう信じている。じつさい、うっとりさせるほど美しい肢体をもつ虫もいるのである。彼らその美を自覚しているかどうか、また日頃、美への努力を怠らないかどうか。それはともかく少なくとも人間にとって、身体を飾って集団を表現する文化は普遍的で、各人の個性もそのなかで主張されてきた。

しかし、近年は世界規模の情報化とコマーシャルイズムの進展で、美的基準も猛烈な勢いで近似化しつつあるように見える。たとえば、東南アジアではお歯黒の習慣は今にもなくなりかけ、若い女性たちは、都会のデパートで大手メーカーの化粧品にあこがれている。それでも先進国のなかだけでさえ、美の基準がなかなか画一化してしまわないのは、情報化の進展が、同時にめまぐるしく流行の移り変わりをも作り出しているからだろう。また、美への意志、欲求には限りがないからだろう。

美の追求は、たやすく消費の向上と結びつく。芸術を思い描いても、禁欲と耽美の両立は困難に思われる。いや、両者に折り合いをつける発想、それがスロービューティなのではないか。そう考えると、これが、性差、年齢、世代、地域など、社会の関係性を再考させる新しい美の哲学に思えてくる。  
(樫永真佐夫)

月刊



次号予告/8月号特集  
くれる

2007年7月号

第31巻第7号通巻第358号  
2007年7月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館  
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1  
電話06-6876-2151

発行人 朝倉敏夫

編集委員 池谷和信(編集長) 樫永真佐夫  
久保正敏 庄司博史 山中由里子

協力 財団法人 千里文化財団

制作 株式会社博報堂

製版・印刷 アサヒ精版印刷株式会社

●本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館企画連携係へ  
●本誌掲載記事の無断転載を禁じます

### 交通案内

■大阪・千里万博記念公園内

- 大阪モノレールで「公園東口駅」・「万博記念公園駅」下車徒歩約15分。
- 阪急茨木市駅・JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車徒歩約15分(茨木方面から1時間1本程度、日本庭園前駐車場乗り入れのバスがあります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください)。
- 自家用車の場合は、万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。
- タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてきます。

